

「良い効率化」と「悪い効率化」

先月、団体交渉でJR九州本社を訪れた際、交渉員共々衝撃を受けました。何と、本社7階のロビーに無人のFamily Martが設置されており、利用者も多く、繁盛していました。利用方法は、「はいる」「えらぶ」「でる」といった極めて簡単なシステム。監視カメラもきちんと設置されていて、わが社にしては珍しく良心的な試みと言えます。なぜなら、これは、人間から仕事を奪った結果設置されたものではなく、余ったスペースを有効活用することで新たに設置されたものだからです。すでにメディアでも話題とのこと、ぜひ我々の職場にも置いて欲しい。本来、自動システムというのは、人間の生活をより便利に、豊かにするためのものでなければいけません。「雇用」を犠牲にした自動化など、私たち労働者にとって大量殺戮（ジェノサイド）でしかなく、公共の福祉的観点からも望ましくありません。今後は、私たちの雇用を守りつつ、無人駅等に不正乗車を検出する装置のようなものを設置するといったように、「現場」の身になった投資にも力を入れて欲しいものです。



青年のひとりごと

コロナも落ち着き、外国人の鉄道利用者が増え、案内等で英語を使う機会が増えました。今後、業務を円滑に進めていくためには、英語を自主的に学んでいく必要があるのですが、これが意外とくせ者で、単に「義務」として勉強しても、そう長続きするものではありません。私も以前から、単語や文法等、英語の学習には力を入れてきましたが、「楽しさ」より「義務感」の方が強かったため、外国人の質問に英語で答えられないことがあると、「今までの努力は何だったのだろう」と自己嫌悪に陥り、一気にやる気を失ったものです。この手の「酬われない感」こそが、多くの日本人が英語学習で挫折する主な原因の一つなのですが、私が勉強を（意地でも）続けていく上でふと思ったのが、反対に、こうした「負の感情」さえ取り除けば、語学学習は長続きするのでは、ということです。そこで必要になるのが、シンプルに「暗記量」を増やす作業。具体的には、How can I reserve a seat on the train? (指定席はどこで取れますか?) と聞かれたら、You must go to the ticket office. (切符販売窓口に行く必要があります) と答える、といったように、特定のフレーズを、理屈抜きで何通りか頭に叩き込んでおき、それらを使わなければならない場面で、確実に使えるようにしておく、というスタンスです。力業ではありますが、逆に、それ以外で上手く喋れなくても、気にしない、凹まない、と割り切る姿勢が心理的に大きな効果をもたらします。つまり、自分が選んだフレーズで完璧に答えた、という「成功体験」が学習意欲をかき立て、もっとレパートリーを増やしていこう、と自発的学習に繋がるわけです。文法を切り詰めて学ぶのは、それからでも遅くはありません。もっとも、私たち人間は、生まれた赤ん坊の頃から、言葉を聞いて、少しずつ話しながら母国語を習得します。日本語さえ文法は後から学びます。こう考えると、「暗記」から入るのは、極めて自然な流れであって、むしろ、日本における学校の英語教育って一体何なの？って話ですね。

○当面する行動

- 5月10日(水) 18:00~/原水禁実行委員会 福教組中部地区事務所
- 5月12日(金) 13:00~/県交運・県交通政策回答 県庁議会議棟
- 5月22日(月) 18:30~/筑紫平和センター役員会 筑紫平和センター